

ニンカン・ネット通信

ニンカン・ネット

Vol. 4

Vol.

2004.11.20

【発行】ニンカン・ネット 〒466-0833 名古屋市昭和区隼人町19 南山短期大学内 Fax (052)836-6543 (南翔会事務局)

降り積もる「大切な時間」に育まれて、
私は、今、ここにいます。

泣いたり、笑ったり、怒ったり、
憎んだり、愛したり、
走ったり、止まったり、歩いたり、
下がったり、上ったり、
出会ったり、別れたり、また出会ったり、
一人だったり、二人だったり、やっぱり一人だったり、
人と同じだったり、違っていたり、
それが嬉しかったり、悲しかったり……

いろんなことがあるけれど、
全ては私にしてみこんで、
今の私になっていく。
これまでも、これからも。



ニンカン・ネットのホームページができました！
いろいろ情報を載せていきます。

URL:<http://www.nanzan-u.ac.jp/~tsumura/ninkan-net/>

画 青山 芳美 (11期)

文 吉田 昌美 (6期)

心理療法の時間

私の大切な時間

6期 寺西佐稚代



お昼休みに職場の電話を取ると人間同期の仲間の懐かしい声でした。「大切な時間」というテーマで仕事を通じて思っていることを書いてほしいというこの原稿の依頼の電話でした。私は現在精神科のクリニックで臨床心理士として仕事をしています。この機会に臨床の仕事や心理療法のことを伝えてみようかなと思い引き受けることにしました。与えられたテーマである「大切な時間」からはズレてしまっていますが、「心理療法の時間」のことを書いてみようと思います。

臨床心理士としての主な仕事は心理療法（カウンセリングといったほうが一般的でしょうか）と心理検査ですが、患者さんとの心理療法に大部分の時間を使います。治療の場は治療関係を土台にした出会いと別れの場でもあり、別れを前提としている関係ともいえます。また、患者さんの病理や年齢に応じて私の関わり方や言葉遣い、さらに心が動く水準も微妙に変わります。日常の時間と比較すると特殊な時間と空間かもしれません。

心理療法やカウンセリングに対してどのようなイメージをお持ちですか？ カウンセリングという言葉が一般的になってきたのと並行して、カウンセリングをすれば悩みがなくなるとか、何もかも話せば楽になるという幻想を抱いて来院される方が最近多いのですが、実際は決してそうではないのです。心理療法は“自分で考え・決断し・行動できる”ように、しっかり悩めるように悩むプロセスを治療者が少しお手伝いするといった側面があります。だから心理療法を受けるということは実はとても大変なことなのです。それでは私たちは問題に直面した時、いつもしっかり

悩んでいるか？ というとなんかそうではないと思います。悩む時あれば、落ち込む時もあるし、少し問題を自分から切り離したり、先送りしたり、休息したり、親しい人に話をしたりという柔軟に心が働き、行動しているのではないかと思います。ところが、心や脳が上手く働かなくなると、意外に思考や感情が頑固になり、この“心の作業”ができなくなるのです。うつ病が新聞や雑誌などで取り上げられるようになりましたが、うつ病になると心や脳の働きがうまくいかなくなります。最近リストカット（自分で自分の手首や腕を切ること）や過量服薬（薬を一度にたくさん飲むこと）、過食といった行動化で自分の問題を表現する若い人が増えていますが、これらも心がちゃんと働かないために起きることがほとんどです。それを本来の舞台である心の作業に戻していくというのが治療ですが、これがなかなか難しく一筋縄ではいかないのが現実です。彼女らは（圧倒的に女性が多い）「消えたい」「生まれてこなければよかった」「私なんて価値がない」と必ずといっていいほど口にします。そして大抵の場合本人だけの問題でなく親の問題が隠されています。また、彼女らの中には虐待を受けた人が少なからずいます。特に父親からの性的虐待を受けた人がその過去の記憶を思い出していく過程は、私の心にもずっしりと重いものが投げ込まれます。心が“器”だとすると家庭もまた“器”なのかもしれません。

「合宿の夜のつどい（懐かしい言葉！）の朗読によく読まれた「すべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生るるに時があり、死ぬるに時があり、…壊すに時があり、建てるに時があり、…悲しむに時があり、…捨てるに時があり、…黙るに時があり、…語るに時があり、…愛するに時があり、憎むに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある」という聖書の言葉がありますが、この仕事をしているとふとこの言葉が生きている言葉として浮かんでくることがあります。

interview



「私の触れた時間」グラバア俊子

Q お仕事と、プライベートの時間の割合を比較するといかがですか。

そうですね。私は基本的にものを計ったりすることが苦手なのですが、南短に来て、留学するまでの2年半くらいは生活のほとんどが仕事だったんです。「働き過ぎだ」って親からも叱られたのね（笑）。私苦勞が身に付くタイプで、どんどん太ってきちゃった（笑）。留学は2年の予定で、ちゃんと時期に帰ってこなければいけなかったんですが、後半で学ぶつもりだった研究所が渇水で一時的に閉鎖になって、「もう勉強する事も終わっちゃったわ」って、勝手に3ヶ月くらい早く帰ってきちゃった（笑）。

Q 子育てをしながらのお仕事はどうでしたか。

当時、仕事はすごく大事でおろそかにはできないと考えていたんです。多分、父親の影響でしょうね。父は公私混同をしない人で、子ども心にもそれは大事だった父を尊敬していたの。だから、子どもに対しても、「今は、仕事なんだから待ちなさい」というのが当たり前で、今、考えると反省点だなんて思うの。本当に仕事の方が大事なかなって。公私って本当に分けられるんだろうかなって。私としては出来る限り合宿にも子どもを連れてったし、そういう意味では公私混同していたかもしれないけれど。そうでないと仕事が出来なかった。手伝ってくれたのが卒業生だったし、ケンが3才の頃から喘息が出たので、側に居る方が安心だったわ。今から思うとよくやれたと思う。夜中に発作を起こして、一人背負って一人乳母車で救急に行ったりとか大変だった。流れていえば、昔は仕事が大変だったけど、今は家族を大事にするよう心掛けてるってところかな。

Q お宅での様子をお聞かせ下さい。

小原村の自然環境の中に居ると、「いのち」としての自分に立ち返りやすいと思うのね。そういう自分を意識しやすいというのはありがたい事だと思うのね。田舎には田舎なりの労働があって、それをして汗をかくのも大事だと思う。自然と関って自分の感性を新鮮に保つ事は基本的に必要じゃないかな。今は、長男と一緒に住んでいます。二人がアメリカに行って、一人だった時期は、たった6ヶ月くらいしかなかったんですよ（笑）。やっと自由になれたと思ったのにね（笑）。最近をよく子どもと映画を見に行ったりするの。家族で動けるのも今年くらいかなと思って。息子が自立すると、お母さんと映画に行くなんて（笑）余裕も気持ちもなくなるでしょうし。情報は次男。時には彼の趣味っていう映画もね（笑）。こないだは「キャシャーン」を見に行ったわよ（笑）。私一人だったら多分見に行かなかったと思う。

Q 「ご趣味」は何ですか。

まずは読書ね。今、夢枕漢の「空海唐の国にて鬼と宴する」って言う伝奇物を読んでいる。結構何でも読むわよね。旅行も趣味ね。それと、時間が出来たら、カーテンや座布団といったお家の物とか、直線断ちの簡単に出来る服、古い着物を壊して自分の着る物を作ればおもしろいんじゃないかなと思っているの。手で縫うのが結構好きだから、最初の子に赤ちゃん布団を自分でデザインしてパッチワークで作ったり。母が私に「子どもが女の子じゃなくて良かったわ」って。忙しいのに洋服作るとかセーター作るとかしたに違いないから、男の子で良かったって（笑）。実際、チョッキとか編んで着せた事もあるけど、全然（笑）着たがらないしさ、まあ、良かったんでしょうね、きっと（笑）そう思いました。だから、手作りの物を作るっていうのは趣味かな。洋服も、編物も、刺繍も、レース編みも最初だけは教えてもらって、その後は自分で好き勝手に作っていく事が楽しいみたいなのね。本を見てその通りに作ったって言うのは、結婚した時に、お揃いのジャケットを作ったの、それが唯一かな。体を動かすのも勝手気ままに動く方がやりやすいわね。

Q 体を動かすのはスポーツとかですか。

「小さな球」をどうにかするっていうのはどっちかって言うと苦手（笑）。体が柔らかかったから、高校の時には体操とかやりたかったんだけど、結局、最後の一年だけ弓道をやって。大学ではモダンダンスにするか合気道にするか迷って合気道に。留学した時、ダンスエデュケーションとかダンスのレッスンは随分取った。そういうのが好きなのよね。

Q 静と動の楽しみを持っていらして面白いですね。

私としてはどちらもクリエイティブな事ね。

Q 最後に人間生にメッセージを頂けますか。

たまたま、母が亡くなって間も無いんだけど。夏休みの間、看病する事が一最期に母と「共にいる時間」が過ごせたことがすごくありがたかったのね。母との時間の中で、直接的な触れ合いがすごく大事になって、それはこちらにとっても癒しになるって感じたんです。今って「触れ合う」こと一単純に触れることが欠けてきた。子育てでは触れる事の大事さって皆さんご存知だと思うけど、老人だとなかなか触れてもらうチャンスが無い。家族とか友人とか「触れる」って意外と大事なんじゃないかなっていうことを感じたのね。それは、自分に触れるっていうことにもつながるかな。自分自身を実感して、今の自分を感じ取るっていうことかな。今の時期そういう事をすごく実感しているの。どうも、ありがとうございました。

聞き手 11期 藤田嘉子

ネットワーク紹介



「ニンカン・ネット」では、ネットワーク作りを進めています。今回のテーマは「大切な時間」。皆さんは毎日どんな時間を過ごしていますか。



最近子どもたちとよく科学館やプラネタリウムへ行きます。行く度に子供から、質問攻めにあってしまいます。忘れていたことがほとんどで、改めて子供と一緒に学んで学んでいます。そんな時なぜか子供と同じ位置にたち、同じことを学んだり、考えたりしていることが不思議で、とまどいすら感じたりします。

今まで、家事や子育てに追われ、自分の時間を持つこともままならず、とにかく自分の時間が欲しくてたまりませんでした。そのせいか、子供に「早く・・しなさい!」が口癖になっていました。そんな時、子供の幼稚園で次のような話を聞いたのです。「子供に早く早くと急かしていると、自分の気づかないうちに子供はどんどん成長してってしまいますよ。もっとゆっくり子供の成長を見守ってもいいのでは。慌てなくても子供はすぐ大きくなっていきますよ。」と。それを聞いたとき、「あーなんてもったいないことをしていたのだらう!」と今までの自分を省みました。最近の自分の戸惑いや違和感は、そこに起因していたようです。子供としっかり向き合わず、気づかないうちに子供だけどんどん成長してってしまっていたのですね。気

づかないうちに大きくなってしまいうんてもったいないことです。成長はやっぱりこの目に刻んでおかないと!もっと子供と楽しみを共有できる時間を大事に、じっくり、のんびり共に成長していけたらと思っています。今夜も「絵本読んでー!」と長女の声に続いて、「5冊読んでー!」と弟の声が聞こえてくるのかな〜。

名古屋市 15期 富田(竹中)麻里さん

3 才児を子育て中の私にとって、貴重な時間はやはり“一人の時間”です。一人になれる時間は子供が寝ている時間ですので、早朝が私のぜいたくな一時です。朝5時頃目覚め、カフェオレをいれ、その日の気分で好きな事をします。新聞を読み、読書をしたり、バックをしたり、手紙を書いたり等々。朝の静けさと、清らかな空気の中でのんびり自分の為の時間を過ごすと、気持ちに余裕が生まれ、家族にも優しく接することができます。早朝に起きるので、家事が早目に終わり、時間に追われて疲れてしまう事も少なくなります。早起きって素晴らしい!と今頃気付いている私です。

時には休日に子供をパパに預け、友達と会ったり美容院に行く事も私の大切な時間。最近はパパも息子との“男同士の時間”を楽しみにしています。いつも元気で笑顔のママでいる為に、今日も一人の時間を楽しんでいます。

丹羽郡 17期 小室(丹羽)美穂子さん

人 関の大切な仲間同士でコミュニケーションを取るという時間。卒業したのになぜ!?と思うでしょう。これを可能にしたのは、HPです!携帯でもアクセス可能な簡単なHPを作成し、BBSを設けて、そこで毎日会話をしているのです。これなら、全国どこにいても、PCを持っていなくても、私達の仲間が何を考え、悩み、楽しんでいるかわかるのです。最近、その会話に支

えられて生きている気がします。(笑)

稲沢市 25期 有賀(古田)早里さん

週末が平日よりも忙しい日々を過ごして始めて約1年が経ちました。月から金までは仕事をして過ごし土日は踊りの練習、もしくはお祭りに参加しています。

私が練習している踊りというのは、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、「よさこい踊り」というものです。法被姿に鳴子を持って集団で舞台やパレード形式で踊るのです。名古屋どまんか祭りや北海道のよさこいソーラン祭りを目標に練習に取り組んでいます。

私が所属しているチームは「ごちゃまい」と言って、その名の通り愛知、岐阜、三重、静岡からと広域からごちゃごちゃと集まった熱い仲間で構成されています。平均年齢27才、男女比は4対6ぐらいの職業も育ってきた環境も異なるメンバーが50名程本当に一生懸命に取り組む姿は自分で言うのもなんですが感動的でさえあります。

会社で働くようになって、これほど真剣に取り組める事に出会えて本当に幸せです。正直に言って練習は大変です。でも体が痛くなるだけであって、心はすごく充足します。



一番今までに思い出深い出来事は今年の3月に浜松よさこい祭りが静岡で開催されて順に賞を発表「大賞は、ごちゃまいです。」というアナウンス、そして流れ出した自分たちのチームの曲。あれほど心が震えるものなんて知りませんでした。夜、あのステージでライトの中、大賞受賞後に踊れたことは一生忘れないと思います。

どこかで「ごちゃまい」を見かけた方は心の中でそっと応援して下さい。また興味のある方は声をかけて下さい。そして一緒に踊りましょう。

名古屋市 23期 安藤純子さん

仕 事を辞めて妻となり母となり5年が経ちました。2人の子供に恵まれ、子供中心の毎日です。母・妻以外に私自身のために費やす時間は皆無に等しい、そう思うと途端に学生時代がなつかしく思い出されます。

在学中は、資格取得のために勉強したり、自分を活かす仕事は何か考えたり、人との関わり・自己発見。何もかもが前向きで常に進行形だった気がします。

それに比べ今は、子供の成長はうれしいけれど私自身の成長は？ 今やるべき事って…。

実のところ子育て真っ只中の私は、社会で活躍している同世代の人たちに対して少なからず負い目を感じていました。そして早く私も復帰して一人の人間としての時間を取り戻したいとあせっていました。

しかし、夜の恒例、寝る前の本の読み聞かせのひとときに「ああ、私は今、子育ての時期なんだ」としみじみかんじたのでした。「このひととき、けっこう好きかも」

たいした事はできないけれど、息子たちとの時間にどっぷり浸かってこれまたよし。これが今の私にとって大切な時間なんだ、そう感じてい

ます。

退職にしても出産にしても自分自身が選択したこと。目一杯子供と関わろうと選択した私。大切な時間は案外身近な所にあるものです。都合の良い解釈かもしれませんが、子供の成長は私自身の成長でもあるのかしら。子供の寝顔を眺めながらそう思うこの頃です。

春日井市 21期 中村(酒向)真美子さん



がんばっている人 Pick Up

21期 谷口菜織子さん

「ニンカン・ネット」奨学助成利用第1号
沖縄ヒューマンインターアクションラボラトリー
(HIL) のTグループ受講

Q Tグループ(以下T)について、どう思いましたか？

短大時代はTそのものが理解できなかったもので、嫌な合宿だなという印象が一番強かったです。

今回は、ニンカンネットの助成金を使える事を通信で知った頃に沖縄でのHILを山口先生から伺い、タイミングがぴったりだったので、「Tか…」と悩みつつも軽い気持ちで申し込みしました。

Q 今回のTを受けてみて、短大時代との違いはありましたか？

短大Tに比べると3泊4日はタイトなスケジュールで、毎日いっぱいでした。

逆に、気持ちはすんなり自然な流れに乗れた感じでのんびり気楽に過ごしていました。

強制参加ではなく、なんとなく軽く気軽に参加したからかもしれないです。私にとっては社会にで

からの再Tの方が有意義な時間をすごせたと思います。

Q T合宿から帰ってきて何か変わりましたか？

日常の会話の早さに驚きました。山口先生に「成果が顔にでてるね」といっていただきましたが、自分では特別な変化を感じていなかったもので「ん??」と思いながらも嬉しかったです。

終了後は参加者それぞれで皆違う感じ方をするのではないかと思います。

Q 今はどのような生活ですか？

毎日に流されない様にセンターの講座は大事な“ゆとりの時間”です。他分野の勉強中なのですが、そちらにはセラピーの要素も必要なのでニンカンでの学びが役立つかもなんて思ってます。

Q 「人間関係科」を出てみて、どうでしたか？

卒業後すぐはニンカンって社会には不向きなのかもと感じてましたが早急な答えがあるわけじゃないですね。

無理に意識してるんじゃないですけど、自分なりのそのときなりのテーマを見つけてそれに意識を持ち続けようとするのって「ひとりニンカン」状態みたいでいいかもと思うようになりました。

年齢差のある私たちを前にしてたんと語る谷口さんは、気負いがなく、落ちついた中に芯の強さを感じました。

卒業後のT…皆さんはいかがですか。

聞き手 5期 小川けいこ
5期 園木 紀子
6期 古山 美保

ニンカン・ネット企画
「星野先生ミニ講座」

つの つの
「角と角をつきあう」
ーつきあいとおつきあいー



去る9月18日(土)、南山短大21番教室において星野先生の講座を開きました。星野先生著「人間関係づくりトレーニング」の中から選んでいただいた実習と講義という内容でした。先生のお話と参加者のふりかえりをまとめましたのでご紹介します。

今の時代に本当に要請されているのは、この場で何が起きているか、相手の心はどんなふうに動いているのかに心を向けるということ、「感性」です。人と人が関わる時には「つきあう」と「おつきあい」の二通りあります。「おつきあい」とは、表面的であたり障りなく相手に合わせる関わり方。「つきあい」は、動物が角と角とを突きあうことからでてきた言葉で、深い関わり合い、ぶつかることを恐れないもの。人はそれぞれ自分の角＝自分が自分自身に対して持っている枠組があり、その時と場合に応じて



見せたり隠したりしているのです。人間関係の2年間は「私はどんな枠の中に住んでいるのか」ばかりをやっていたと思います。

人間関係が上手にできる人は、自分にいつも目を向けることができる人です。人と関わっている時の自分の態度、考え方、価値観を気にしています。価値観というのは、その人の今までの生き方の中で作られてきたものだから、違って当然。夫と妻、子供、上司と部下、それぞれ違うのは自然なこと。そういう中で一緒にやっていくには話し合う力が必要です。充分話し、聴いてもらったので、自分の価値観を変えるわけではなく、あなたの言うことがよくわかるので納得して譲ることができるということです。

今若い人は「意見が違う人となんで話をしなくてはいけないのか」といい、「違うことがわかればそれでいい」という傾向にあります。しかし、違う人と話し合わない関係は作ってはいけません。お互いに角と角を見せ合ってみることで、そのことが「つきあう」ことになり、成長していくことができるのだと思います。

参加者の声

☆価値観が違いぶつかった時、「納得して譲る」まで、話し合いをもっていけるようになりたいと思いました。
☆こういった貴重な話を、自己概念の中でもがいている中高生に聞かせてあげたい。
☆家庭その他で悩む事があり、「自分に自信がない」と思っていた。今日の話を聞いて、「自分云々…」ではなく、「周りの人を理解する」ことができていないのでは?と思った。そんな自分を受け容れて、前向きに生活していきたい。少し気が楽になりました。
☆実習の時間で、もう少し他の人と関わりを持ちたかった。
☆なかなかいい企画をしてくださって

感謝しています。大変興味深く、そして最近の自分の関わりなど、ふりかえりながら参加させていただきました。「実習」価値観も今の自分を考えるきっかけになって、よかったです。実習できるのもいいですね。
☆最近人と関わる事をしていなかったもので、おっくうになっていましたが、もっと積極的に関わると楽しい人生になるかも、と思いました。
☆短大卒業後の大学・大学院・職場での経験が私に加えられており、短大時代以上に深い学びの場になりました。価値観の実習の時にそれぞれの言葉を大学・大学院で専攻していた倫理神学の観点から考えたり、職場での自分について自覚したり、これらは短大時代には出来ない経験でした。
☆ニンカンで何をしていたのか、卒業後もずっと分からないままの私ですが、

ほんの少しだけ糸口が見えたようで嬉しかった。
☆今日の先生のお話は、自分を見つめるPOWERを増やす事、見つめる視点をいただく一つの要素になったと思います。先生に是非「つきあっていただきたい」
☆自分にとっての「つきあい」と「おつきあい」の違いをあらためて認識しました。
おつきあいをしている人達との心の距離が縮まらないのも、自分がそうしているんだという事がわかりました。



「星野先生ミニ講座Ⅱ」を2005年春頃に予定しています。詳細は決まり次第ニンカン・ネットHPでお知らせします。

私の読書ノート

その二

伊藤雅子先生

小学生で、まだ「小公女」や「シンデレラ」のような「お姫様物語」が好きだった頃のある日、母は私に「揚子江のフーさん」という本を買ってくれた。「なんだ、お姫様は出て来ないの」といいながらその本を隅へ押しやったものの、退屈なある日曜日の時間つぶしに「フーさん」に手を伸ばした。随分前のことで記憶が薄れてきているが原著者は確かエリザベス・ウエンライトで実業の日本社から出版されていたように思う。読み始めて私はたちまち「フーさん」の虜になってしまった。揚子江の河口近い川べりで貧しいお母さんと2人暮らしのフー少年は彫金師匠の使い走りをしてわずかのお金を稼いでいたが、物事におしこまれ機転のきく少年の生き方には私を惹きつけるものがあった。（「その本読んだわ！」と言う方がいらしたら必ず教えてください）。私の中国物への興味はそこから始まったといってもよい。確か小学校の高学年で母の書棚にあったパール・バックの「母の肖像」をこっそり持ち出して読み、宣教師の妻として厳しい中国の風土に生きた女性の姿に強く印象づけられた。その時、何時の日か、パール・バックの代表作「大地、上・中・下」を読みたいと思っていた。戦争・留学・結婚・子育てと追われ、その「いつか」はなかなか来なかったが、10年程前、国際学会に出席する夫と南アフリカに出かけたとき、機上の長旅にと文庫本の「大地」3冊をスーツケースの中に入れた。中国の時代的背景に翻弄されながら出産の翌日から働く妻と共に一代を築き上げた王龍に始まる3世代の波乱に富んだ物語は長旅を全く退屈させないものだった。ちなみに、著者パール・バック自身も波乱に富んだ生涯を送られたので興味のある方はピーター・コン著「パール・バック伝—この大地から差別をなくすために」（舞字社、2001年）もお勧めしたい。

「大地」の他にも、中国の女性の生涯を取り上げたものは数多くあり、有名になった「ワイルド・スワン」をお読

みになった方も多いのではないかと思う。他にも何冊かあるので、どれか選んで読んでみると今、色々な意味で注目されている中国がぐっと身近になると思う。私が読んだのは、リンパン著「上海・嵐の家族」（講談社、1995年）、ユエ・ダイコン/ C.ウェイクマン著、白水紀子他訳、「チャイナ・オデッセイ、上・下」（岩波書店、1995）、等で、途中で休むのを惜しんで読み通した作品だ。また、1人っ子政策を題材とした スティーブン・W・モッシャー著「チャイニーズ・マザー、上・下」（祥伝社、1995年）では主人公、ヤン・チ・アンが中国で保健婦として「1人っ子政策」の推進に従事したものの、1985年にアメリカ留学中の夫を訪ねての渡米中に2人目の子どもを身ごもり、故国を選ぶか子どもを選ぶかの苦悩の末、米国への亡命を決意する。

エミイ・タンによるアメリカに渡った中国女性を題材とした「ジョイ・ラック・クラブ」、「キッチン・ゴッズ・ワイフ」、「私は生まれる見知らぬ国で」等は、映画化された作品もあるので、ご存知の方も多いのではないだろうか。

日本女性の描いた中国物としては加藤幸子著「長江」（新潮社、2001年）をお勧めしたい。北京で幼少時代を共に過ごした佐智（ツォチ）と中国少年フーそれぞれの波乱に富んだ生涯と再会を洋々と流れる長江を背景に描いている。最後に皆さんもよくご存知の山崎朋子さんの本をご紹介します。この著者のお名前は短大の「女性論」の時間に話題にしたこともあるので思い出してください方もあるかもしれないが、彼女の「朝陽門外の虹—崇貞女学校の人々」（岩波書店、2003年）は日本人宣教者が中心になって、北京の朝陽門外のスラム街で少女たちの手に職をつけながら彼女達の自立の手助けと教育をした清水安三・美穂・郁子の生涯が山崎さん独特の「聞き書き」をもとに描かれている。そして、清水安三・郁子夫妻はのちに桜美林学園を創立することになるが、この学校名を高校野球でしか知らなかった私は、その学校創立の秘話を知って大変得をしたように感じたことも確かである。

FEED BACK
フィードバック

「ふりかえり」をありがとうございます。
通信3号から一部ご紹介致します。

Q 今、取り上げてほしいテーマ・題材があればご記入下さい

*私も絵本が大好きで今絵本の奥深さにハマっています。
絵本特集やって下さい。 16期K.M.

*〇期生って1つの学年にしばって情報を集める。連続で30回くらいになってしまいますけど(汗) 25期 A.S.

Q その他ご意見、ご感想、質問などがあればご記入下さい

*学生時代には学びとれなかったこと今の自分ならかみしめる事ができるだろうと思います。なつかしい先生方の名前を見てもう一度学びたいなという思いがわいてきました。 16期M.M.

*疎遠になってしまった子は連絡のとりようがないですから同期カキコミはうれしいし、楽しみです。

25期 A.S.

今後も、先生・卒業生の様子や、皆様からの「私のお薦め情報」「エール」を発信し続けます。「ふりかえり」をどんどんお寄せ下さい。

ニカン・ネット 掲 示 板

◆ コンサート情報 ◆

南山短大のOGによるハンドベルコンサートのご案内です。卒業後も、練習を重ねて活動を続けている仲間たち。すてきなベルの音色に酔いしれませんか。

◇メリット・ベル・リンガーズ◇

12月5日(日) 午後 南山教会チャリティーコンサート
12月12日(日) 午後 愛知聖ルカ教会クリスマスコンサート
ホームページ: <http://member.nifty.ne.jp/sibu/>
問い合わせ: kyonkyo@gld.mmtr.or.jp(14期 坂本京子)

◇Handbell Company 一言(いちおん)◇

クリスマス・コンサート ~ひとつの音が、あたたかい~
12月19日(日) 16:00開演 アートピアホール(栄・ナディアパーク)
入場料: 一般1,500円(前売1,200円) 学生1,000円(前売700円)
ホームページ: http://www.geocities.jp/bell_ichion
問い合わせ: 090-6096-4187(専用ダイヤル)
人関卒業生メンバー: 岡田早苗(10期)・中尾陽子(15期)・斎藤由紀子(16期)・岩室好恵(21期)・可知聖子(24期)・阿瀬川沙織・水野淑恵・鷺見理沙(25期)・小澤有紀・小西照子・野々村郁江(27期)

◆ Thanks! ◆

今回表紙絵は、11期 青山芳美さん、表紙文は6期 吉田昌美さん、挿絵は、25期 有賀早里さん、16期 斎藤由紀子さんにかいていただきました。編集・印刷は尾頭橋印刷所にお願ひしました。
ニカン・ネットHPは、16期 林康代さん(天国屋オフィス)、津村先生にご尽力頂きました。

◆ 第6回日本体験学習研究会全国大会 ◆

体験学習に関するワークショップ・ラウンドテーブル・様々な実践の報告などがあります。

日 時: 2005年12月4日(土) 5日(日)

会 場: 南山大学D棟

参加費: 3000円(両日)2000円(一日のみ)

問い合わせ: 電話(052)832-3111 内線973

南山大学文学部心理人間学科津村研究室

ホームページ: <http://www.nanzan-u.ac.jp/~tsumura/nittaiken/>

◆ 学があなたを応援します! ◆

「ニカン・ネット」奨学助成活動は、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》講座受講料の50%(限度額5万円)、大学等への入学・編入学費用のうち5万円を補助します。詳しくはお問い合わせ下さい。

《一般助成コース》人間関係科卒業生を対象にした同期会開催1回につき1万円を補助します。

【申込み受付期間】

第4回申請分:2005年度(春期)(4月~8月) 受付締切日:2005年3月31日

第5回申請分:2005年度(秋期)(9月~3月) 受付締切日:2005年8月31日

《一般助成コース》の申請は随時受け付けています。

【申込み方法】、【選考方法】など詳しくはお問い合わせ下さい。

◆ 講座情報 ◆

社会人向けの講座を随時開講しています。詳細については事務局までお問い合わせください。カタログを差し上げます。

◇南山大学人間関係研究センター◇

問い合わせ: 電話(052)832-5002

E-mail ninkan-c@nanzan-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/>

<Tグループ IN清里/社会人向け>~深いかわりから学ぼう~
日 時: 2005年3月1日(火)~6日(日)

研修費: 73500円 (別途滞在費約60000円程度)

担 当: 楠本和彦/山口真人/中堀仁四郎/文殊紀久野

◇南山短期大学コミュニティーカレッジ◇

問い合わせ: 電話・FAX(052)834-2900

◆ 寄付のお願い ◆

「ニカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。

《振込先》

UFJ銀行 八事支店 普通 1715892 ニカン・ネット
代表者 伊藤雅子

*お名前と期(学生番号)を必ずご記入下さい。

~ご寄付をいただいた方、ありがとうございました。~

◆ スタッフ・記事募集します ◆

次号の投稿テーマ 「このまちで暮らして」

~どのように人と関わり、地域と関わっていますか?~

担 当: 11期 清水みどり FAX (052) 443-8863

E-mail: ninkan-net@mail.goo.ne.jp

企画・奨学助成・通信スタッフを随時募集中! 見学大歓迎!

ニカン・ネットの定例会は、第4土曜日11時~南山短大No21番教室で開催しています。日時の変更がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

◆ 編集後記 ◆

今回もたくさんの卒業生や先生方のご協力で、無事発行することができました。ありがとうございました。このニカン・ネット通信を読み、少し元気が出たり、ほっとしたり、ヘーと感心したり、何となくあせったり、いろいろな感じていただけたらとても嬉しいです。これからもより多くの人達の手で創り上げていけたら、と思います。ご感想、今後のご要望などをお待ちしています。 6期 青木敦子

【問い合わせ先】「ニカン・ネット」奨学助成活動担当

5期 林幸子 Fax(052)722-4875

「ニカン・ネット」E-mail:ninkan-net@mail.goo.ne.jp

「ニカン・ネット」HPでも詳細をご覧になれます。

—「ニカン・ネット」奨学助成を受けられたみなさん—

(2004年3月1日~7月31日受け付け分)

《奨学コース》1期 高木美智子さん 東海女子大学(心理学科)編入

21期 松永佳子さん 愛知学院大学大学院(文学研究科心理学専攻)入学

5期 園木紀子さん 10期 古田典子さん

南山大学人間関係研究センター

「アドバンス体験学習ファシリテーター・トレーニングA」受講

《一般助成コース》20期 卒業生のみなさん 同期会開催